

悩む若者に“居場所”を

若狭町・美学舎

相談や施設開放

若狭町大鳥羽の美術文化の体験を中心とした複合的多機能教育施設若狭ものづくり美学舎は本年度から、町の委託を受けて不登校気味の児童生徒や、悩みを抱える若者らを支援する適応指導教室「心の居場所『ふれあい教室』」と「若狭町子ども・若者サポートセンター」を開設した。相談員計8人体制で、悩みの軽減や社会復帰をサポートする。

(成実宏一)

学校、社会への一歩 支援



悩みを抱える子どもや若者をサポートする職員ら
＝若狭町大鳥羽の若狭ものづくり美学舎

同美学舎は2006年、幼児から高齢者までを対象に美術文化を中心とする場として開学。美術関連や学力向上講座は、年

間約150人が利用している。高校卒業資格が得られる高等部は08年に開設、卒業生は昨年度で100人を超えた。

復帰の支援はこれまで、町の福祉課と教育委員会が担っていたが、開学以来11年間で蓄積した指導のノウハウを活用し、質の高い支援につなげようと委託が決まった。

通学への気力不足を感じている小中学生を対象としたふれあい教室は、3人の相談員が担当。悩みや課題について話し合い、心身の安定を図る。同美学舎のカリキュラム体験と並行し、家庭や学校、関係機関との連携を図りながら再び意欲的に登校する手助けをする。

活動は月、火、木、金曜日の午前9時から午後3時まで。要請があれば家庭訪問もする。

若狭町子ども・若者サ

ポートセンターは、40歳程度までの青年とその家族を対象に相談を受け付け、心のよりどころとして同施設を開放する。相談員は5人体制で、平日の午前9時から午後5時まで開設する。

いずれの利用者に対しても強制的に学校、社会への復帰は促さず、本人の希望を第一に相談員らが判断、学校や社会への一歩を後押しする。

同美学舎の長谷光城代表(73)は「時代の変化と共に社会的抑圧が大きくなった。自身の存在意義などに不安を抱える人に自信を持ってもらい、未来を開く支援をしたい」と話していた。

いずれの利用希望者も、まずは電話で気軽に相談してほしいとしている。問い合わせは同美学舎☎0770(64)1788。

若狭町子ども・若者サ

1788。

☎0770(64)1788。